

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 カトリック京都司教 区カリタス会	代表者	井上 新二	法人・ 事業所 の特徴	登録定員27名（通い15名、宿泊8名）。 運営方針“利用者一人ひとりの人格を尊重し、通いサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、居宅において自立した生活を継続することができるよう援助します。また、拠点でのサービスは、家庭的で、かつ地域住民との交流や地域活動への参加を大切にします。
事業所名	下狛ふれあいの家	管理者	永島 智史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	2人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価・ミーティングでの「次回までの具体的な改善計画」を進めていく。	自己評価2.「～したい」の実現、4.地域での暮らしの支援について説明。改善計画は出来ているが、項目によっては関わる事がない職員がいる事で、自己評価に差が出てきている。	全職員が評価に参加している事が確認できた。出来ていないと評価している職員には、「何が出来ていないか」とフィードバックする必要がある。	事業所自己評価・ミーティングでの「次回までの具体的な改善計画」を進めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	一日一度の掃除、汚物を捨てる事で異臭を防ぐ。	毎日夕方のトイレ掃除とゴミだし、夜にリビングの掃除により異臭は感じられない。汚物も新聞紙でくるむ事で臭いの軽減を図っている。	事業所に入りやすい環境は必要だが、開放的にしすぎると利用者が外に出て行くリスクが高くなる。優先順位とバランスを考えて環境を整える必要がある。	門は閉めておく事で外に出るまでにワンクッションをおけるようにする。閉鎖しすぎないように施錠はしない。いちごサロン開催時に看板を設置する事で、事業所に興味を持ってもらえるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	回覧で事業所の紹介を回してもらおう事で事業所を知ってもらう。地域のサロンに出向く事を続ける。	地域包括支援センターと共に地域のサロンに出向く事は、事業所の宣伝活動にあたるとの判断で出向く事はできなかった。認知症サポーター養成講座に参加する事で地域との関わりの機会を増やした。	相談に来られた地域住民がいた事は、相談できる場所と認知されてきているのではないかと。	自治会長に相談・許可を得ながら、事業所が参加できる行事・活動を増やしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域に出向いていく事で相談しやすい環境を作っていく。	地域のサロンに参加する事はできなかったが、地域住民が介護相談に来られ、介護保険の申請をする事になった。	C項目と同じ意見	サポーター養成講座への参加等により、少しでも地域住民との距離を縮める事で相談しやすい環境を作る。

E. 運営推進会議を活かした取組み	相談できる場所である事を知ってもらうための広報活動をしていく。	ブログの発信などを行う事で、事業所の様子が誰でも目で見て分かるように取り組んだ。	地域の方の事例検討は、頻繁にある事ではないので実績がない。	運営推進会議で出た意見を、事業所の会議の議題として取り上げ、改善に努める。
F. 事業所の防災・災害対策	防災マニュアルの整理を行う。	神の園全体で、火災だけでなく、風水害、地震の防災マニュアルを整理した。	精北地区の防災訓練には参加したが、今年の実施はなかった。	地域で行われる防災訓練には積極的に参加をしていく。事業所の防災訓練の継続と、家族の参加を呼び掛ける。

